



「農業普及指導外部評価懇談会」を開催

平成21年10月27日(火)、いわき市四倉町で「平成21年度第1回いわき農林事務所農業普及指導活動外部評価懇談会」を開催しました。

この懇談会(会長 大川信行東日本国際大学教授)は、農業関係者以外の外部有識者による効果的な農業普及指導活動の展開を目的として年2回開催し、評価・提言をいただきながら、普及指導活動に反映させています。

当日は、平成21年度普及指導計画及び評価対象課題の「いわきの農業を支える担い手育成」について概要を説明し、「大野第一地区農用地利用改善組合の集落営農」、「(株)ゆいのさと駒込」及び「(有)とまとランドいわき」の農業経営について現地調査を実施しました。



調査は、農商工連携に関する活動、生産性向上への取組み、計画達成の見込みなどについて行いました。委員からは、専門的な技術・経営や後継者育成の方法などの質疑があり、普及指導活動の取組状況について検討が行われました。

次回は、来年2月に開催を予定しており、第1回と併せた評価結果を3月に取りまとめるとともに、この評価結果に基づき、営農指導活動改善計画を策定し、さらに効果的な活動の展開を図ることとしております。



菅波事務局長(愛谷堰土地改良区)が「農業農村工学会東北支部優秀賞」を受賞

平成21年10月29日(木)、青森市で「農業農村工学会平成21年度東北支部総会」

が開催され、その席上で、愛谷堰土地改良区事務局長菅波孝光氏が、東北支部優秀賞を受賞しました。

この賞は、愛谷堰土地改良区が取り組んでいる、老朽化する農業用水路などの機能診断を実施し、計画的な補修による長寿命化を図り、施設の機能保全と管理費を節減する方法として、幹線用水路補修工事の「住民参加型土地改良区直営施工(労務費支払型)」について、平成19年度農業農村工学会に研究発表した内容に対するものです。



この直営施工の取り組みは全国でも始まっていますが、特に、愛谷堰土地改良区の取り組み事例は、一般的な一部労務を地元が担う直営施工ではなく、専門業者との技術連携や資材調達の工夫、参加する組合員(農家)の技術力の判断を考慮するなど、全国の関係者から多くの注目を集めています。



今後、県内ばかりで無く、全国の土地改良施設の保全や更新のための先導的な役割を果たしていくことが期待されています。



「田んぼの学校」で脱穀を実施

平成21年11月5日(木)、いわき市立夏井小学校学習田で「田んぼの学校」稲の脱穀を行いました。

児童たちは、9月に刈り取った稲を、地元農家の指導で千歯(せんば)こきや足踏み脱穀機、唐箕(とうみ)など昔の農



具を使った脱穀作業を体験したほか、コンバインを使って昔と今の脱穀作業の両方を比較体験しました。



脱穀後のもみは地元農家のもみすり機で玄米にしてもらいました。米は、重さ210kgとなり、昨年と比べて30kgほど多い収穫量でした。

今回は10回目の活動となり、児童たちは、今までの努力がいっぱい詰まった米袋の重みに歓声をあげながら、大きな収穫に満足した様子でした。



「いわき地方農産物直売所等合同フェア」を開催

平成21年11月14日(土)、いわき市小名浜さんかく倉庫2号棟「小名浜潮目交流館」で、いわき農林事務所及びいわき地方振興局の主催により「いわき地方農産物直売所等合同フェア」を開催しました。

この合同フェアは、地産地消推進強化支援事業の一環として、「地産地消の拡大」及び「地域農産物のPR推進」を目的として、農産物直売所10店舗、農家レストラン3店舗、農産物加工所2箇所の計15店舗が共同で、農産物や飲食物、加工品の販売を行いました。



当日は昼過ぎまであいにくの雨模様でしたが、館内は、地元で生産された新鮮な農産物や加工品を求める大勢の人々で賑わいました。

また、合同フェアの開催時間を利用し、いわき地域で生産、販売される農産物などを中心としたクイズを行い、正解の発表と併せて行った解説に参加者は理解を新たにしていました。



「食農応援メニュー」による活動支援を実施

平成21年11月16日(月)、いわき市立渡辺小学校の学習田において、前月15日に稲刈りを行い、はせがけして乾燥させていたもち米「まんげつ」の脱穀作業を行いました。

はじめに、地元サポーターの代表者から作業内容の説明が行われた後、当農林事務所の農業普及指導員から、稲刈りや脱穀で使用する道具の移り変わりを、写真などを用いて説明しました。



その後、稲束運びやはせ木の片付けなどの作業を行うとともに、『こき箸』や『千歯こき』を使った昔ながらの脱穀作業を体験しました。昔の道具を使った作業には“コツ”が必要であることを、児童たちは、実際に体験することで学んでいました。

渡辺小学校の学習田は今年も豊作で、約300kgの収穫がありました。今後は、地元農家の協力により「乾燥・調整・もみすり」が行われ、12月9日の「収穫祭」で、サポーターの皆さんと全校生に振る舞われる予定です。



「いわき市農業担い手育成講演会」を開催

平成21年11月17日(火)、JAいわき市本店で担い手農業者及び関係者など94名が参加し、「平成21年度いわき市農業担い手育成講演会」を開催しました。

はじめに、NPO法人アグリネット理事長黒澤賢治氏が養蚕・こんにゃくの価格低迷により栽培面積や農家が激減する中、地域資源を活かすべく、農家への働きかけと消費者の意見収集及び農商工連携による商品開発を進め、「4つのプログラム+5つの販路」による生産から販売までのシステム化を行い、地域農業の活性化を進めてきた事例について講演しました。

次に、JAそうま営農経済部次長牛来芳康氏が、特徴が無く売れ残る米をどうにかできないかと考え、エコファーマーから一歩進んで特別栽培の面積拡大や、環境にやさしい米づくりを進め、県内他産地と価格差が小さく売れ残りの無い米づくりについて、2番目に

合戸地区阿部清久氏が、基盤整備と集落営農、園芸品目による経営高度化に基づいた地域活性化について、最後に指導農業士鯨岡千春氏が、いわき市の秋冬の気象条件を生かしたブロッコリーの機械化体系を進め、長期出荷を行った事例について発表を行いました。



講演終了後は、熱心な質疑が行われ、参加者は今後の担い手農業者の目指す道しるべとして大いに参考としていた様子でした。



「フレッシュ農業ガイド講座」を開催

平成21年11月24日（火）、県立磐城農業高校で「フレッシュ農業ガイド講座（食農教育）～いわきの郷土食をつくろう～」を開催しました。

この講座は農業高校等連携促進事業の一環として、地場農産物を使った郷土食体験を行うことにより、地産地消と食文化への理解を深めることを目的としています。



講座を受講した生活科学科3年生の生徒10名は、講師となったいわき地区生活研究グループ連絡協議会員の指導を受けながら、「のっぺい汁」、「青菜のじゅうねんあえ」などの5品を調理しました。生徒達は、「じゅうねん」や「いもがら」など昔から伝わる食材へ関心を示すと同時に、「超ヘルシー！」などの歓声をあげ、出来上がった郷土食を試食しながら、今後の授業に活用していきたいなどと、改めて「食」と「農」の大切さを認識していました。



「有機農産物生産者交流会」を開催

平成21年11月27日（金）、いわき合同庁舎で、いわき市内の有機農産物生産者や関係者37名が出席し、「有機農産物生産者交流会」

を開催しました。

有機栽培の取り組みは、生産者それぞれが独自に実施してきたケースが多く、栽培技術や販売対策などの情報交換の場が少ないのが現状でした。このため諸問題発生に対する円滑な解決方法を見出すためのネットワーク形成を図る目的で、いわき農林事務所が中心となって初めて開催しました。

はじめに、県農産物流通課担当者から「有機農産物に対する消費者動向について」、次に善林庵の本間裕英氏から「いわき市における有機農産物の需要について」と題して、情報提供が行われました。引き続き行われた情報交換会では、各々の販売面での課題や、除草対策などの技術的な問題も提起され、多くの情報等が出席者の間で共有されました。

出席者からは、是非今後も交流会を開催して欲しいなどの要望が出されました。

いわき農林事務所では、今後も有機農産物の生産技術向上を図るため、継続的に交流会や勉強会などを開催し、有機農業を支援していくこととしています。

なお、有機農業に興味がある方は、いわき農林事務所へ連絡していただければ随時対応いたします。



「田んぼの学校」収穫祭を実施

平成21年11月28日（土）、いわき市立夏井小学校で「田んぼの学校」収穫祭を行いました。

今回の活動は、夏井小学校の学校行事である「餅つき」とあわせて開催し、田んぼの学校で収穫した「こがねもち」を使用して全校生徒による餅つきを行いました。

つきあがった餅は小学校PTAによって、きなこ餅やあんこ餅、雑煮として各学級の教室で振る舞われました。児童たちは、自分たちで作った、つきたてのおいしい餅を味わっていました。



その後、5年生は保護者らが見守る中、田んぼの学校での活動を振り返る発表会を行いました。発表会では、その時々考えたことや感じ

たことなど、児童たちがこれまでの活動を通していろいろなことを考え、たくさんの方の話を学んだことがよく分かり、環境教育事業としての成果が十分見える内容でした。



次回は1月下旬に今年度最後となる「引継式・修了式」が開催されます。



「水源地域の森林整備と農業施設の見学交流会」を開催

平成21年11月28日(土)、いわき市川前町ほかで「水源地域の森林整備体験と農業施設の見学交流会」を開催しました。

この交流会は、福島県が平成18年度に導入した「森林環境税」のPR及び消費者と農業者の価値観の共有を図るための「食と農の絆づくり運動」の推進を目的に一般公募の市民23名が参加して行われました。参加者は、川前町の間伐施行地で森林所有者を講師として間伐の必要性の講話や、チェーンソーによる伐採実演を見学しました。

見学に続いて、参加者はノコギリによる立木伐採に挑戦しましたが、初めて作業する方もいて、切れ味を確かめつつ作業を行い、立木が倒れる瞬間は歓声を上げていました。

森林の整備体験の後は、いわきの里鬼ヶ城で5つのグループに分かれ、ソバ打ち名人の指導の下、地元産ソバ粉100%を使用したソバ打ち体験に挑戦しました。ソバが出来上がると打ち立て、茹でたてを味わいながら「おいしい、おいしい」と大満足の様子でした。昼食後は、四倉町の「とまとランドいわき」の栽培施設を見学し、トマトの栽培方法、販売、流通等について説明を受けました。ここでは、赤く熟したミニトマトの収穫・試食も行い、参加者からは、「甘くてとてもおいしい」などと感激の声が聞かれました。



最後に、木材の需要拡大が森林整備へ繋がることを説明し、参加者全員に記念品として木製プランターキットが渡され見学交流会を終了しました。



今回の交流会を契機として、森林環境税への理解をより深めていただくとともに、農林事務所としても「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」の推進と「食と農の絆づくり」を図ってまいります。

いわき農林事務所からのお知らせ

- ◎ 平成21年度ステップアップ講座経営セミナー(第4回、第5回)
期日: 12月11日(金)、15日(火) 13:30~16:00
会場: 第4回いわきグリーンプラザいわき 第5回県いわき合同庁舎
- ◎ 稲ホールクローブサイレーン推進研修会
期日: 12月14日(月) 13:30~15:30
会場: 三和ふれあい館
- ◎ ブロッコリー現地検討会
期日: 12月18日(金) 13:00~14:00
会場: 平下神谷
- ◎ 田んぼの学校引継式・終了式
期日: 1月26日(火) 時間未定
会場: いわき市立夏井小学校
- ◎ ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業(加工体験)
期日: 1月23日(土)または30日(土) 10:30~12:00
会場: いわき市立貝泊小中学校
- ◎ いちご「ふくはる香」を知る“冬のミニ旅”
期日: 1月30日(土) 31日(日) 9:00~12:00
会場: 平菅波地内他

☆ 引き続き福島県インフルエンザ対策本部からインフルエンザ流行警報発令中です。
手洗い、うがいなどの予防対策を十分に行いましょう。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6197 Fax (0246)24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp



iwaki.nourin@pref.fukushima.jp